「絹の襷」、柳澤晴夫さん（40 期）のこと

上原 昇（２組）

最近、「絹の襷」（稲葉なおと著、24 年 6 月、慶応大学出版部発行）という本を読む機会がありました。平成 26（2014）年に世界文化遺産に登録された富岡製糸場（群馬県富岡市）を創り、操業停止後もその建造物を守り抜いた男たちの物語です。
著者の稲葉（1959 年東京生）は 1 級建築士の資格を持つ紀行作家です。
https://realsound.jp/book/2024/06/post-1697664.html

富岡製糸場跡には世界文化遺産に登録された翌年の平成 27 年 10 月に、65 期有志による「蕨の会」が見学で訪れています。
http://ueda65ki.sakura.ne.jp/NEWS/7thWARABI_Kai151006.pdf

同製糸場は明治 5（1872）年に時の政府が威信をかけて創建した歴史的な建造物で、昭和 14（1939）年に片倉工業㈱（以下片倉）の所有となりました。昭和 62（1987）年操業を止めてからも片倉は建物の保全管理に努め、群馬県および富岡市と協力して、平成 18（2006）年に国の重要文化財指定を獲得したのです。
片倉の主要製糸工場の一つであった旧大宮工場（さいたま市大宮区吉敷町、昭和 47（1972）年操業停止）の広大な跡地は、今はショッピングモール「コクーンシティ」となっています。
（「コクーン：Cocoon」は繭の意味）
私にとっては、家から歩いてすぐの所にあり、スーパーや電気量販店など毎日のようにお世話になっている便利で馴染みの場所となっています。
本を開くと、プロローグで片倉の第 11 代社長を務めた柳澤晴夫という人が登場します。生まれが上田とあるので、上田高校同窓会の名簿を繰ってみると同窓 40 期の大先輩であることが分かりました。柳澤さんは大正 12 年（1923）生まれですから、我々の親世代の人で、上田高校から東京商大を出て、昭和 23（1948）年に片倉に入社したとあります。
同期諸氏の中で、柳澤さんの名前を知っている人がいるかもしれません。
本書では製糸業が時代から取り残され衰退する中で、操業停止後も富岡製糸場の建造物群存続に尽力した象徴的な人物として柳澤さんを取り上げています。
柳澤さんたちは富岡製糸場を保有することを誇りとし、その思いを先人から次の世代にあたかも駅伝の“襷（たすき）”のように受け継いでいったのです。
平成 15（2003）年、柳澤さんは 79 歳の生涯を閉じました。

ネットで検索したところ、柳澤さんは上田高校と一橋大学（旧東京商大）卒業生の集まり「一上会」の会長を務めていたことが分かり、同会ＨＰから写真を拝借しました。
歴史的な建築物や柳澤晴夫さんに興味のある方にはお薦めの本です。

「絹の襷」　　柳澤晴夫さん

さいたま新都心「コクーンシティ」内、カタクラ・ギャラリーサロンの展示
（2024 年 12 月 1 日記）